

闇から光へ

コロサイの信徒への手紙

2014/3/23

コロサイの信徒への手紙1章11～14節

「喜びをもって、光の中にある聖なる者たちの相続分に、あなたがたがあずかれるようにしてくださった御父に感謝するように。御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました。わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。」

この世は「闇の力」に支配されている

- この世は闇(暗闇)である
 - 「暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。」ルカ1:79
 - 「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」ヨハネ福音書1:5
- 「闇」の支配者とはサタンである
 - 「彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち帰らせ…」使徒26:18
 - 「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」エフェソ6:12

「闇の力」に支配されると

- 目指すべき方向が分からない→不安社会
 - 「光は、いましばらく、あなたがたの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか分からない。」ヨハネ福音書12:35
 - 「彼らは盲人の道案内をする盲人だ。盲人が盲人の道案内をすれば、二人とも穴に落ちてしまう。」マタイ15:14
- 悪に導かれてしまう
 - 「わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいたのに、あなたたちはわたしに手を下さなかった。だが、今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている。」ルカ22:53

御父は闇から救い出して下さった

- 私たちは自分の力では闇から抜け出せない
 - 闇の中にいることすら自覚していない
- 御子(イエス・キリスト)は私たちを照らし、導くために「光」としてこの世に来られた
 - 「イエスは再び言われた。『わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。』」
ヨハネ福音書8:12
- 愛する御子の支配下(国)に移してくださいました
 - 「神の国」とは「愛の」御子が治めておられる国
 - 私たちのために命さえ惜しまない王

私たちは「贖われた」

「わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。」

- 「贖い」とは身代金の支払いによって解放される事
- 誰も命の身代金を払えない
 - 「たましいの贖いしろは、高価であり、永久にあきらめなくてはならない。」詩篇49:8<新改訳>
- 神の御子御自身が身代金とられた
 - 「この方(御子イエス・キリスト)はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。」テモテ一2:6

さらに、「罪の赦し」を持っている

- 私たちの罪は、過去も現在も未来も、すべて赦された＜完了形＞！
 - 「私たちのすべての罪を赦し、いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書が無効にされたからです。」コロサイの信徒2:13-14
- 罪の赦しは揺るがない
 - 「得ている」と訳されている言葉は「持ち続けている」の意＜現在進行形＞
- 闇の支配に戻らないように！
 - 「あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。」エフェソ5:8